

藤原昭夫博士をしのぶ

学 長 加 藤 寛

福澤諭吉は明治時代の先駆者として日本の思想をリードしたことは紛れもないことですし、それだけに福澤諭吉研究は数多くの研究者が存在しています。しかしその中でも藤原博士は第一級の研究者であることは間違いありません。

第一級と申したのは、第一に、福澤関係の文献を広く渉猟されていることです。藤原博士が自ら述べておられるごとく、『早稲田出身のお前がなぜ福澤研究をするのか』と訊かれることが返答に一番窮します。なぜなら、偶然だったからです』と。その答えを聞くたびにノーベル化学賞の受賞者田中耕一氏のことを思い浮かべたくなります。

第二に、その数多くの研究者と直接・間接に交流を深められ、ご自身の解釈が是か否か、そしてその論理的整合性を丹念に考究されていることです。

博士の学位論文となった『フランシス・ウェーランドの社会経済思想』は、福澤の流れを汲む後学の徒もなかなか及ばぬ研究であります。慶應義塾では5月15日前後を記念日として『ウェーランド講義の日』と定めてあり、内外の識者の講演を開催する慣わしとなっておりますが、藤原博士がその一人として招待されたことは、特筆すべきことと申さねばなりません。

第三に、博士の分析には方法論が確固として貫かれています。内田義彦氏の「歴史的アプローチおよび理論的アプローチの総合が経済学史研究である」という立場を貫いています。特に「福澤諭吉の経済思想」を体系的にまとめようと思ったが、そこまで自分の研究は到達していないからあえて『福澤諭吉の日本経済論』と題したのだという言葉に、飽くなき研究者としての誇りを感じさせるものがあります。

時にふれ博士と語り合える時間は、私にとって千葉商大キャンパスの心温まるひとときでありました。福澤諭吉の名とともに、藤原博士は千葉商大における第一級の研究者としてその名を後世にとどめてくださいました。有難う、藤原博士。私たちはあなたの研究を模範としてこの地に後学者を育てていきたいと思ひます。